

ストラスブール海外研修を終えて

名古屋大学農学部応用生命科学科2年

091630415 馬淵 優典

はじめに

今回のストラスブール海外研修を終えて、様々な経験を経てたくさんのことを学ぶことができた。現地の語学学校でのフランス語の授業のみならず、ストラスブール大学の学生との交流、ヨーロッパ議会見学など、体験できたことが種類、内容ともに多岐にわたり、濃密な時間を過ごせたのではないかと思う。その中で得られたこと、学んだことをいくつか絞って本レポートを進める。

研修で得たこと

1. 物怖じしないで発信していくことの大切さ

1つ目は、物怖じしないで発信していくことの大切さである。今回の研修では、フランス語の授業が日程のほとんどを占めた。その中では、日本型のインプット重視の座学ではなく、積極的なアウトプットを求められるものだった。授業の形態も独特で、具体的には、簡単なゲームを用いた人探しゲームや“新しい国家”を考えて発表したり、架空の映画のプロモーションをグループで考えて発表したりというものを行った。

自分が一番面白いと思ったのは、授業の一環でストラスブールの観光案内所に行ったことだ。このときの授業課題は、“フランス語でストラスブールの観光名所や有名な店を聞き、後日の発表のための調査をする”こと。自分は、何とかして話していることを聞き取ることにばかりに集中し、話しかけることができなかった。その後の自由行動では、観光案内所で教わった有名なパン屋に行こうと思った。しかし、なぜかたどり着けずに困っていると、一緒にいた友人が見かねて、「現地の人に聞くしかないね」といい、躊躇している自分を尻目に、現地の人にゆっくりフランス語で質問し始めた。そのおかげで、何とか目的の店にたどり着き、おいしいパンを買うことができた。実を言うと、観光案内所で教えてもらった道筋が間違っていたのだが、そのことよりも友人の姿を見て、“やはり、自分から何かしら働きかけていかないと解決しないのだな”と改めて感じた。その日から、授業内でも少しずつ発言したり、現地の人にちょっとしたことでも話しかけたりするようになった。また、現地の学生との交流の時に、現地の学生が積極的に僕たちに日本語で話しかけてきていて、とても驚いた。

2. 文化の違い

2つめは文化の違いだ。文化の全く違うところに行ったのだから当たり前なのだが、実際に行ってみると改めて驚いた。まず、本当にいろいろな人種の人が共存していることに驚いた。日本では、“日本人”と“外国人”をはっきりと分けている印象だ。しかしフランスでは、アフリカ系の人やアラブ系の人、同じヨーロッパでもドイツやポーランド出身の人と同じ国民として生活になじんでいるのを見て、とても驚いた。

またそのほかにも、日本では、鍋文化に見られるように、同じ皿の食事をみんなで共有するという文化が

ある。フランスでもある意味同じなのだが、昼食のアルザス料理を友達同士でシェアして楽しんでいた時、周りのお客さんがとても不思議そうに僕たちを見ているのに気づいた。それを見て、“僕たちにとってよくあることでも、ここでは異質に見られることもあるのだ”と改めて感じた。

あと、基本的にいい加減な人が多いような気がした。赤信号でも気にせず横断歩道を渡るのはまだ序の口である。電車に乗るときには、日本のように改札がないため、切符を買わずに無賃乗車をする人がよくいる、という話を現地の人から聞いた時は驚くとともに少しあきれた。また、割り勘をするときも、少数を切り捨てて通ってしまうところも驚いた。他にも、家庭訪問の時にその家の方に連れて行ってもらった先で、その家の主人がその娘さんを女性として丁重に扱っていたり、電車の中が日本と違ってとにかくうるさかったり、日本ではなかなか体験できないようなことをたくさん体験できた

3. 異文化理解

3つめは、異文化理解だ。“フランス人は、日曜日の家族との食事をとても大事にする。それも、何時間もだ。時には、5時間以上もすることもある。”家庭訪問先でのご主人の言葉だ。この言葉を聞いたとき、僕はひどく驚いた。それは、食事の時間にはではなく、価値観がこれほどまでに異なることにある。確かに家族と食事をするのは楽しいが、何時間もする価値があるかと問われると疑問符が付く。他にも、金曜日の午後は仕事を早めに切り上げて帰ることや、平日の夜遅くや日曜日の早くに店が閉まってしまうことに違和感があった。でも、これこそがフランス人にとっての日常であり、常識なのだ。国それぞれ、ひいては人それぞれで価値観は異なるのだと、ひしひしと感じた上に、これを受け入れていくことが異文化理解なのだと感じた。自分は、海外に出て働いていきたいと考えているため、現地の人と文化面での差異が生じたときに、今回の研修を生かしたい。具体的には、譲れるところは譲り、どうしても譲れないところは妥協点を探すなどして、一方的に自身の価値観を押し付けるのではなく、お互いに相手を尊重して物事を進められるようになりたい。

まとめ

今回の研修で本当に多くのことを学んだ。それに加え、現地の学生との交流を通じて、大好きなことに一途な心持ちやそのために努力することの大切さを改めて痛感した。現地の学生の日本語はとても上手だったので、次に会うときまでには上達して、フランス語で会話ができるようにしたい。また、このような貴重な体験ができたことに、大変感謝している。お力添えいただいたすべての皆さんへの感謝を胸に、今後の学生生活をより有意義な時間となるように積極的に活用していきたい。